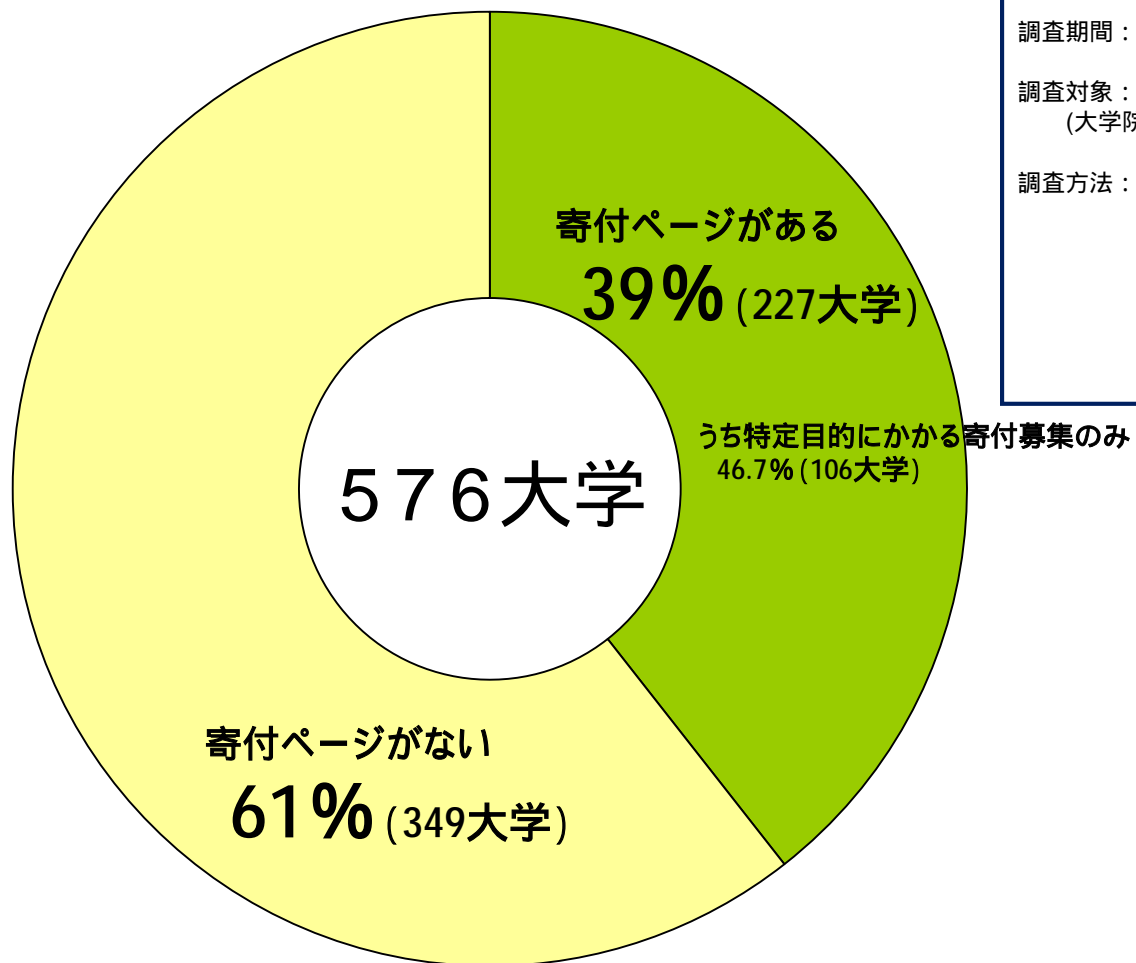


ウェブサイトの調査から見た 私立大学の募金概況

ウェブサイトに寄付募集案内のページがある大学



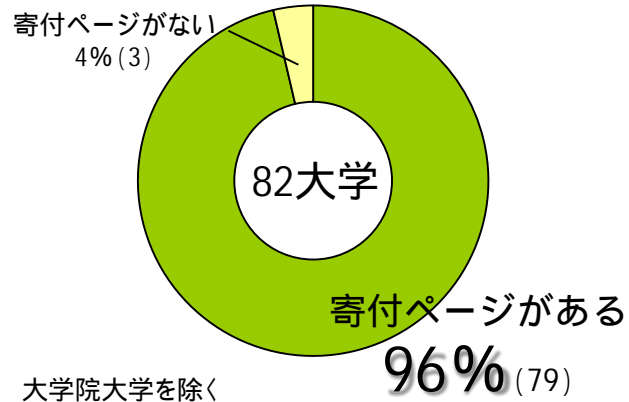
調査期間：平成27(2015)年12月～平成28(2016)年3月

調査対象：558私立大学
(大学院大学、募集停止校、通信制のみの大学等を除く)

調査方法：大学及び当該大学を設置する学校法人の公式ウェブサイトについて実際に閲覧し、調査項目について確認した

学校法人ウェブサイトのみ寄付ページがある場合で、その法人が複数の大学を設置している場合、その複数の大学全てをカウントの対象とした

国立大学



寄付ページへのアクセス

項目	該当数	調査対象全数に占める割合 (n=576)	寄付ページに占める割合 (n=227)
大学トップページから寄付ページにアクセスできる	126	22%	56%
卒業生メニューページから寄付ページにアクセスできる	32	6%	14%
学校法人ウェブサイトからアクセスしなければわからない	48	8%	21%

寄付者のコスト・業務量を軽減

“寄付をしたくなる”理由を減らすことが重要！

➡ 1クリック

➡ 2クリック

➡ 大学のウェブサイトからはわからない

この場合の「寄付ページ」には寄付募集を伴う周年事業特設ページの場合も含む

大学トップページ

卒業生メニューページ

寄付ページ

■ 使途指定のご寄付

使途指定の寄付金は、寄付者のご意向にかなった目的に使用させていただきます。皆様からのご芳志は慶應義塾のさまざまな活動において大きな力となっています。

使途の一例

- ・ 塾生への奨学金
- ・ キャンパス整備資金
- ・ 学部・大学院・研究所の研究資金
- ・ 体育会各部の強化資金
- ・ 医学部各教室の研究資金 など



■ 維持会

明治34年、福澤諭吉逝去の折に、慶應義塾の教育・研究活動を財政面から支援する目的で設立されました。現在、維持会員数は約45,000名を数え、会員の皆様からのご厚志で設置した維持会基金の運用益を充当し、慶應義塾の教育・研究の振興、施設の拡充などに幅広く寄与しています。

事業の中核である「維持会奨学金」は、経済的理由により修学が困難な塾生に対して勉学に専念できる環境を整え、全国の優秀な学生に慶應義塾で学んでもらうため地方出身者の採用に意を用いています。

会員となられた皆様には月刊誌『三田評論』をご加入期間お届けいたします。

ご卒業生をはじめどなたでもご加入いただくことができます。

慶應維持会

検索

慶應義塾維持会とは

福澤諭吉逝去直後の明治34年に、義塾を支えたい、と願う社中によって寄付を継続して行う会として設立されました。

時代と共に変遷を見せながらも今に引き継がれ、義塾の発展を支えています。

今日では、会員の皆様からのご厚志による基金を基に、維持会奨学金をはじめ教育・研究の振興、施設の拡充などに寄与しています。



奨学支援 — 「維持会奨学金」

経済的理由により修学が困難な塾生を援助することを目的に、返済不要の「維持会奨学金」を給付しています。

毎年、学業・人物ともに優れ、愛塾精神に富んだ塾生が採用されています。

2007年度～2015年度まで計645名に給付しました。

2015年度(37都道府県・海外 出身)	
文・経済・法・商・総合政策・環境情報学部から75名 各50万円
医・理工・看護医療・薬学部から30名 各80万円

維持会の事業

維持会基金の運用益により4つの様々な事業を支援しています。

・「福澤諭吉記念文明塾」への財政支援など

「福澤諭吉記念文明塾」とは
 未来貢献のために学ぶという志を持った学生と社会人を集め、「対話と議論」を中心とした3か月の教育プログラムを年2回開催しています。

福澤諭吉記念文明塾

・「維持会奨学金」
 ・東日本大震災により被災した学生への奨学金
 ・重度の障がいのある学生への学業奨励金 など



・アントレプレナー支援資金(ベンチャー支援) など

「アントレプレナー支援資金」とは
 慶應義塾の学術的研究活動によって生み出された研究成果の社会活用を促進を目的に、義塾の知的財産権の実用化に際して設立されるベンチャー企業に対して支援をしています。

・防犯カメラの設置 (三田)
 ・テーブル・椅子・外灯の設置 (三田・矢上)
 ・図書館棟サイン設置 (日吉)
 ・AED増設(三田・芝共立・女子高・志木高・中等部) など



慶應義塾大学病院 新病院棟建設事業募金

(慶應義塾教育・研究・医療環境整備事業募金)

2013年1月1日～2018年3月31日

募金目標額 100億円

医学部が2017年に創立100年を迎えるにあたり、新病院棟を中核とした最先端の医学・医療の追求とグローバルな視野を備えた医療人の育成を目指します。

人々の健康を守り、社会に貢献し続けることで、「慶應医学 次の100年」の礎を築いてまいります。

この事業は既に多くの方々のご理解とご支援に支えられており、皆様からのご期待に応えられるよう、着実に歩を進めてまいります。今後とも皆様のお力添えをお願い申し上げます。

慶應義塾大学病院 1号館Ⅰ期棟を開設しました

新病院棟1号館Ⅰ期棟（地上6階、地下1階）が2015年8月に竣工しました。

地下1階に放射線治療部門、1階および2階に放射線診療部門、3階に外来や生理検査部門、4階および6階に病棟、5階に内視鏡部門が配置されています。

このⅠ期棟を新たな起点として信濃町キャンパス内の再整備を進め、2016年春にはⅡ期棟の建設に着手します。

慶應 新病院棟建設事業

検索



1号館Ⅰ期棟外観



2020年春 全工事完了イメージ

遺贈・相続財産によるご寄付

皆様の尊いご芳志を未来に活かす本制度に、ぜひご理解を賜りたくお願い申し上げます。

遺贈によるご寄付

近年、遺言に対する関心が高まっており、ご自身の願いを将来確実に実現させる方法として遺言書を作成される方が増えています。築き上げた財産の一部を慶應義塾へ寄付することで社会に貢献したいとされる方々のために、慶應義塾では信託銀行と提携して「遺贈による寄付制度」を設けております。

遺贈とは

遺言によって財産を相続人または特定の方に配分することをいいます。
配分先に慶應義塾を指定することもできます。

相続財産によるご寄付

「慶應義塾が大好きであった故人を想い、相続財産の一部を慶應義塾の活動のために寄付したい」というご遺族様からのご相談やお申し出をいただいております。慶應義塾では相続財産からのご寄付を承っております。塾生の奨学金、ご卒業された学部・研究科の運営資金など、用途をご指定いただけます。

創立130周年記念事業の概要

千里山キャンパスに 新たなアクセス・エリアの創出

20億円

～利便性・快適性を求めたアプローチに～

千里山キャンパスへの新しい玄関口として、阪急関大前駅北口の東側に、大学への新たなメイン通路を開設します。また、エスカレーターや憩いの広場を設け、植樹により緑のキャンパス空間をスマートに演出するなど、学生や地域住民の皆様の利便性・快適性を高め、安全・安心で人にやさしいアプローチを造成します。この新

たなアクセス・エリアの創出により、教育・研究をはじめ、更なる社会連携の推進や地域貢献活動への寄与など、地域と学園が共に発展できるような「まちづくりの推進」にも取り組んでいきます。特に、在学生の方にとっては、創立130周年という記念すべき事業に関わる象徴的な空間を体感することでしょう。

新アクセス・エリア
完成イメージ図



「関西大学グローバルフロンティアプログラム (KUGF)」の開発・提供による“次世代グローバルリーダー”の育成 ～国際感覚あふれるグローバル人材の育成を～

6億円

文部科学省が提唱するグローバル人材育成を見据え、本学学生が、国際社会の各分野で活躍できる人材と



なるために必要な専門的知識や技能を修得し、グローバルシーン(場面)に必要な高度の言語運用能力・実践的コミュニケーション力・国際的課題解決力を獲得できるよう、各種の専門的プログラムを開発・提供します。また、学部教育との連携によって学生の国際的適応力を高めるほか、KUGFや各学部・研究科独自のプログラムなどを助成対象とする「グローバル教育推進奨学金・援助金」の創設を検討するなど、社会が求める国際感覚溢れる“次世代グローバルリーダー”の育成に努めます。



完成イメージパース

イノベーション創生センター

9億5千万円

「関西大学イノベーション創生センター」の設立

～先進的な産学官連携の共同研究拠点に～

科学技術総合立国を標榜する我が国の喫緊の課題は、国際競争力の向上に資する革新的なイノベーションを創出することにあります。

このセンターは、本学理工学系の先端研究に加え、マーケティング・リサーチ等の社会科学系の分野も配置し、自然科学系・社会科学系の枠組みを超えた教員・学生が企業等の皆様と対話・交流できる機能等を有する本格的なイノベーション創出拠点となります。

社会連携部および先端科学技術推進機構等との強固な連携のもとに、インキュベーション機能、ベンチャー促進機能等も兼ね備えた日本有数の産学官連携・共同研究拠点を形成します。さらに、企業等の研究部門を誘致させていただき、研究者・技術者の皆様方との共同研究も促進するなど特徴的かつ持続可能な研究成果を世界に発信する“研究ハブ大学”となることを形成し、産学連携に強い関西大学をめざします。

「関西大学 なにわ大阪研究センター」の設立

5千万円

～大阪文化の検証と次世代への継承として～



復元CG（大正中期の角屋行跡）

関西大学は「大阪」に生まれ育まれてきた大学であり、「なにわ、大阪」に関する豊富な学術資産と、密接な地域連携に基づく研究実績を有しています。これを基盤に平成22（2010）年に「大阪都市遺産研究センター」として文部科学省の大型補助金（私立大学等戦略研究基盤形成支援事業）にも採択されています。この「なにわ大阪」をキーワードに、人文、社会、情報、防災、理工学等の各分野を統合した「総合科学」の観点から、永続的な研究拠点を形成する一大企画として「関西大学なにわ大阪研究センター」を新たに設立します。

このセンターには、大阪文化の検証と次世代への継承という大きな期待が寄せられています。大正期・道頓堀のCG製作など大阪研究における我が国の代表的な拠点がこの関西大学に存在することを高らかに宣言し、今後とも大阪の歴史と文化を愛する多くのファンを魅了し続けてまいります。また、既存の附置研究所をはじめ近隣の大学、自治体、企業、商店街、NPO等との学術的な連携を推進し、21世紀におけるネットワークとしての「大阪研究の拠点」として活動し、その成果を国内外に広く発信していきます。

**「関西大学『学縁』給付奨学金制度」の構築と
奨学生会「葦の葉倶楽部」の設立**

4億円

**大学と地域住民が企画・運営する学社融合型の課外活動
「NPO法人関西大学カイザーズクラブ」の設立**

**校友会、教育後援会、併設校等との連携による
「オール関大」としての各種事業の実施**

～「学縁」をキーワードに関西大学の絆を広げます～

「関西大学『学縁』給付奨学金制度」を構築し、本学を卒業・修了した奨学生を主たる対象として寄付募集を行い、現役の奨学生に支援することで奨学生同士や卒業生・修了生との縦横無尽の交流(縁)を創出します。また、奨学生会「葦の葉倶楽部」を設立し、現役奨学生と卒業生・修了生を会員とする「学縁」を構築していきます。

さらに、学社融合型の課外活動「NPO法人関西大学カイザーズクラブ」を設立し、学生のフロンティアスピリットを育成します。これら以外にも、地方都市での校友の集いの開催など、校友会、教育後援会、併設校等とも連携した「オール関大」としての各種事業を実施していきます。



その他各種事業として予定している行事等

- ・創立130周年記念式典の挙行 (平成28年11月4日に学内にて開催)
- ・130年のあゆみ及び130周年記念誌の刊行
- ・創立130周年記念DVDの製作
- ・記念植樹 など

120周年記念式典

